

## ゲン イニイ

ベトナム出身

麗澤大学 外国語学部外国語学科

### 日本とフエの雨の日

日本で生活するのは今年で 5 年目になります。日本へ来たばかりのとき、なぜ 6 月上旬から 7 月中旬にかけての雨の時期は「梅雨」なのかと驚きました。そうか、この時期は熟した梅の季節で雨も降るから「梅雨」という呼び方になるのかと、非常に面白いと思いました。確かに、日本は桜だけではなく、梅もとても有名です。日本にいるおかげで、日常でも様々な綺麗な花を観ることができるようになりました。日本は 1 年間中いつも景色が綺麗で、様々な花が溢れているという印象があります。そして、6 月に咲くあじさいは梅雨を代表する色合いのひとつでしょう。アジサイの花は、土壌の酸性度によって色が変わり、酸性ならば青、アルカリ性ならば赤と聞きました。



梅雨という季節を好む人はいるでしょうか。毎日曇り、曇天に遮られ鈍くなった日差しだけです。そして、気温と湿度が高いため、これはおそらく一年で最も快適な時期とは言えない

かもしれませんが、私にとっては懐かしく感じられます。雨が鳴らす様々な音と、葉から滴る雨音の中で昔の幸せな思い出も悲しい思い出も深く沈むでしょう。そして、雨だれはその全てを取り込みつつ、一瞬の安らぎを与えてくれます。

私の故郷はフエで、11 月頃から翌年 4 月まで雨の時期が続きます。フエは雨季と乾季の 2 つの季節があります。冬には霧雨がずっと続いています。曇天に遮られ鈍くなった日差しだけで、空はいつも暗いです。晴れた日にフエに来ると、街はより多くの色を持ち、歴史的な建物は現代生活に合わせて、京都のように魅力的なところに見えます。しかし、雨の日にフエに来ると、心がどんどん重くなり、この土地の懐かしい色が少しずつ増していきます。フエの雨は長く続いて、街を取り巻く緑の木々も閑散とした雰囲気深く沈みます。そのため、他の地域出身の人に、「フエは悲しいところですね」とよく言われています。



しかし、雨の日はフエのような悲しい街がとても美しいと思うようになりました。小さな通り、低い家、静かな木々、そして人々の静かな足音から響き渡るものが街に冷たく深い色を与えます。雨を通して、壁とかつての雄大な霊廟はさらに苔むしたものになります。雨はフエに深い表情を与えます。



フエで育った私にとって雨の時期は新しいものではありません。そして、前日からまだ乾いていないレインコートの湿った匂いが身近になり、忘れがたいものにさえなっています。フエからどんなに離れていても、雨の日は私のようなフエ出身の人たちにとって、とても馴染み深いものなのです。

以上